

ノーベル平和賞授賞式に出席 被爆地の思いを世界へ



※写真提供:共同通信社

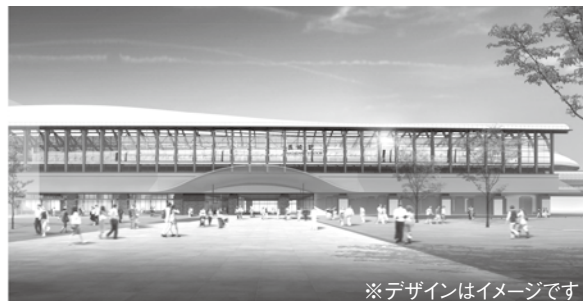
授賞式後の(左から)田上市長、被爆者のサーロー節子さん、松井市長

12月10日にノルウェー・オスロ市で開催された「ノーベル平和賞授賞式[受賞者:核兵器廃絶国際キャンペーン(ICAN)]」に、田上市長が被爆地・長崎市民の代表として、広島市の松井市長とともに出席。現地では、オスロ市長との面談や、被爆の実相を伝えるアピール活動などを行いました。

ノーベル平和センター内に設けられたコーナーには、長崎、広島の被爆腕時計などの被爆資料が約1年間展示され、平和の大切さを伝えます。

■問い合わせ 平和推進課(☎844-9923)

新たな陸の玄関口 長崎らしさを感じる駅舎へ



※デザインはイメージです

2022年度の開業に向けて整備します

11月14日、鉄道建設・運輸施設整備支援機構が、長崎駅の新駅舎デザイン案を県知事と市長に提示。

県と市は、一昨年の3月に基本計画を策定し、7月に駅舎のデザインについて同機構へ要望していました。

新駅舎は、長崎港に向かって、丸みを帯びた屋根が広がる構造になっていて、海とのつながりを感じる開放的な空間を演出。壁面や柱には、レンガ調のタイルを使用する予定で、「長崎らしさ」を印象づけるつくりになっています。

■問い合わせ 長崎駅周辺整備室(☎829-1173)

V・ファーレン長崎 J1(ゼイワン)昇格を報告!



贈呈されたサインボールは市役所の本館案内所に置いています

11月22日、高田社長、高木監督、村上選手、吉岡選手が、これまで応援してくれたサポーターのみなさんへの感謝の気持ちを市長へ伝えました。来シーズンからJ1でプレーするV・ファーレン長崎。高田社長は「J1で活躍することで、平和への思いを長崎から世界へ伝えていきたい」と話しました。また、ユニフォームを平和のメッセージを込めたデザインに変更することも表明しました。

高木監督と選手は「来シーズンに向けてしっかり準備したい」と意気込みを語りました。

■問い合わせ スポーツ振興課(☎824-3728)

ベトナムに御朱印船を寄贈 友好交流の象徴へ



贈呈式には約200人が出席しました

長崎とベトナムの交流を象徴する「御朱印船」を官民共同で贈るプロジェクトが行われ、約400年前に長崎と朱印船で交易し、日本人町もあった古都ホイアン市で11月10日、贈呈式がありました。

御朱印船が結んでいた長崎と、ベトナムの交流を未来への交流としてつなげるこのプロジェクト。贈呈式では、長崎くんちで出し物を奉納している本石灰町の根曳衆が力強い船回しを披露し、会場には「モッテコーイ」の音が響き渡りました。

■問い合わせ 国際課(☎829-1113)